



# エクスポート ユーティリティ の使用方法

システム管理者には、部門の異動、再編成、または機器のアップグレードのために、別の Cisco CallManager データベースに大量の電話機レコードを移動する機能が必要です。BAT のエクスポート ユーティリティには、大量の電話機、ユーザ、およびユーザ デバイス プロファイルの各レコードを Cisco CallManager データベースからデータ ファイルに CSV 形式でエクスポートする機能があります。さらに、そのレコードを別の Cisco CallManager データベースにインポートできます。テキスト エディタで CSV データ ファイルを編集できますが、このファイルは非常に複雑なので注意して編集する必要があります。

BAT で電話機レコードを Cisco CallManager データベースからエクスポートする場合には、電話機のモデルとモデルの回線の数がデータを構成する基礎となります。BAT データ ファイルには、1 つの電話機モデルのレコードだけが必要であることに注意してください。Export Specific Details オプションを使用する場合、BAT は 1 回線の電話機モデルの別個のデータ ファイルを生成し、2 回線の同じ電話機モデルについては別のデータ入力ファイルを生成します。

管理者をエクスポート機能によって支援するために、Device Summary Report には、Cisco CallManager データベース内のすべての電話機モデルと設定済み回線のスナップショット ビューが用意されています。

## 関連項目

- [Cisco CallManager サーバから別の Cisco CallManager サーバへのレコードの移動 \(P.10-2\)](#)
- [エクスポート ログ ファイルの表示 \(P.10-20\)](#)

## Cisco CallManager サーバから別の Cisco CallManager サーバへのレコードの移動

エクスポートユーティリティを使用すると、複数の Cisco CallManager サーバ上のレコードを 1 台の Cisco CallManager サーバにマージできます。Cisco CallManager サーバから別の Cisco CallManager サーバにレコードを移動する手順は、次のとおりです。エクスポートするのは、移動の対象となるレコードだけにしてください。次の手順を実行します。

1. ユーザレコードのエクスポート (P.10-12)
2. 電話機レコードのエクスポート (P.10-7)
3. ユーザデバイスプロファイルレコードのエクスポート (P.10-17)
4. (オプション) テキストエディタでの CSV ファイルの編集。レコード形式は、そのファイル形式に指定された形式に従っている必要があります。たとえば、電話機レコードは電話機ファイル形式に従っている必要があります。



### 注意

CSV ファイルを編集するときは、十分に注意してください。誤った形式でレコードを挿入すると、電話機が動作しない場合があります。

5. CSV ファイルをパブリッシャ データベース サーバ上の適切なフォルダにコピーします。
  - 電話機ファイルを C:\BATFiles\Phones\Insert フォルダに
  - ユーザ ファイルを C:\BATFiles\Users\Insert Users フォルダに
  - ユーザデバイスプロファイル ファイルを C:\BATFiles\User Device Profiles フォルダに



### 注意

レコードの挿入順序は、重要な意味を持っています。ユーザレコードを最初に挿入する必要があります。この方法によって、既存ユーザに対して、デバイスが適切に関連付けられます。

6. ユーザレコードを挿入します。エクスポートされなかった次のアトリビュートを設定します。
  - Enable authentication proxy rights
  - Enable CTI Application usage
  - Call Park Retrieval Allowed
  - Enable Calling Party Number modification
7. 電話機レコードを挿入します。
8. ユーザ デバイス プロファイル レコードを挿入します。
9. ログ ファイルでエラーをチェックします。詳細については、[P.10-20](#) の「[エクスポート ログ ファイルの表示](#)」を参照してください。

#### 関連項目

- [Cisco CallManager への電話機の挿入 \(P.3-61\)](#)
- [Cisco CallManager へのユーザの挿入 \(P.4-7\)](#)
- [ユーザ デバイス プロファイルの挿入 \(P.6-27\)](#)

## 電話機エクスポートの使用法

電話機レコードをエクスポートする場合、次の 2 つのファイル形式オプションから選択できます。

**Default Phone** : 同様の設定の電話機の場合。

**All Phone Details** : 複数パーティションやコール検索スペース（コーリングサーチスペース）などの、回線設定の異なる電話機の場合。

### Default Phone ファイル形式

Default Phone ファイル形式を選択した場合は、定義済みクエリーを使用してレコードをエクスポートできます。定義済みクエリーを使用してエクスポートする場合、エクスポートできる電話機レコードは、一定数の回線を持つ特定の電話機タイプに関するものだけです。たとえば、1 回線を持つ Cisco IP Phone Model 7960 のレコードをいくつかエクスポートし、2 回線を持つ Cisco IP Phone Model 7960 のレコードをいくつかエクスポートする場合は、異なる 2 つのクエリーを使用する必要があります。結果として得られる CSV ファイルも、2 つの別個のファイルになります。

表 10-1 に、Default Phone ファイル形式を選択した場合にエクスポートされるフィールドを示します。

**表 10-1 Default Phone ファイル形式でエクスポートされるフィールド**

フィールドの種類	エクスポートされるフィールド
デバイスフィールド	MAC Address、Description、Location
回線フィールド	Directory Number、Display、Line Text Label、Forward Busy External、Forward Busy Internal、Forward No Answer Internal、Forward No Answer External、Forward No Coverage Internal、Forward No Coverage External、Call Pickup Group
ユーザフィールド	User ID
短縮ダイヤル	Speed Dials

### All Phone Details ファイル形式

All Phone Details オプションを使用して電話機レコードをエクスポートする場合は、特定モデルの電話機の電話機レコードをエクスポートすることになります。すべてのデバイス フィールド情報、各種の回線アトリビュート、および電話機に関連付けられているサービスがエクスポートされます。クエリーを使用してレコード数を制限することはできません。

表 10-2 に、All Phone Details ファイル形式を選択した場合にエクスポートされるフィールドを示します。



(注) All Phone Details ファイル形式を使用してエクスポートする場合は、MAC アドレスではなくデバイス名が保存されます。

**表 10-2 All Phone Details ファイル形式でエクスポートされるフィールド**

フィールドの種類	エクスポートされるフィールド
デバイスフィールド	Device Name、Description、Owner User ID、Device Pool、CSS、AAR CSS、Media Resource Group List、User Hold Audio Source、Network Hold Audio Source、Location、User Locale、Network Locale、Phone Button Template、Expansion Module type I、Expansion Module type II、Softkey Template、Phone Load Name、Module 1 Load Name、Module 2 Load Name、Login user ID、Built in Bridge、MLPP Indication、MLPP Preemption、MLPP Domain、Retry Video call as Audio、Privacy、Security Mode、Ignore Presentation I ndicators、Single Packet Capture mode、Packet Capture Duration、Certificate Operation、Authentication Mode、Authentication String、Key Size (bits)、Operation Completes By
モデル固有のデバイスフィールド	Information、Directory、Messages、Services、Authentication Server、Proxy Server、Idle、Idle Timer、Enable Extension Mobility、Logout Profile、Login User ID、Login Time、Logout Time、Product Specific XML

表 10-2 All Phone Details ファイル形式でエクスポートされるフィールド(続き)

フィールドの種類	エクスポートされるフィールド
回線フィールド	Directory Number、Partition、Voice Mail Profile、Line CSS、AAR Group、Line User Hold Audio Source、Line Network Hold Audio Source、Auto Answer、Forward All to Voice Mail、Forward All Destination、Forward All CSS、Forward Busy External to Voice Mail、Forward Busy External Destination、Forward Busy External CSS、Forward No Answer External to Voice Mail、Forward No Answer External Destination、Forward No Answer External CSS、Forward On Failure to Voice Mail、Forward On Failure Destination、Forward on Failure CSS、Call pickup group、Forward Busy Internal to Voice Mail、Forward Busy Internal Destination、Forward Busy Internal CSS、Forward No Answer Internal to Voice Mail、Forward No Answer Internal Destination、Forward No Answer Internal CSS、Forward No Call Coverage External to Voice Mail、Forward No Call Coverage External Destination、Forward No Call Coverage External CSS、Forward No Call Coverage Internal to Voice Mail、Forward No Call Coverage Internal Destination、Forward No Call Coverage Internal CSS、Display、External Phone Number Mask、Message Waiting Lamp Policy、Ring Setting When Idle、Line Text Label、Ring Setting When Active、No Answer Ring Duration、MLPP Target Destination、MLPP Calling Search Space、MLPP No Answer Ring Duration、Max Num Calls、Busy Trigger、Call Info Display Mask、Alerting Name
ユーザフィールド	User ID
短縮ダイヤル	Speed Dial Number、Speed Dial Label
サービス	Service Name、Subscribed Service Name、Parameter Name、Parameter Value

#### 関連項目

- [電話機レコードのエクスポート \(P.10-7\)](#)
- [Default Phone ファイル形式 \(P.10-4\)](#)

- 複数ユーザを持つ電話機レコードのエクスポートおよびインポート (P.10-10)

## 電話機レコードのエクスポート

Cisco CallManager から電話機レコードをエクスポートする手順は、次のとおりです。

### 手順

- ステップ 1** **Configure > Phones** の順に選択します。Phones Options ウィンドウが表示されません。
- ステップ 2** **Export Phones** オプション ボタンをクリックして、**Next** をクリックします。Export Phones ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** Export file name フィールドに、ファイル名を入力します。
- ステップ 4** File Format Name フィールドで、**Default Phone** ファイル形式または **All Phone Details** ファイル形式を選択します。選択項目によりエクスポート オプションが決定され、該当するエクスポート オプションのオプション ボタンが設定されません。
  - **All Phone Details** ファイル形式を選択した場合は、**All Details** オプション ボタンの下にある **Model** リストボックスで、デバイスのタイプまたは特定のモデルを選択します。この形式でエクスポートされるフィールドの一覧は、[表 10-1](#) を参照してください。[ステップ 6](#) に進みます。
  - **Default Phone** ファイル形式を選択した場合は、**Specific Details** オプション ボタンの下にある **Model** リストボックスで、デバイスのタイプまたは特定のモデルを選択します。**Default Phone** 形式でエクスポートされるフィールドの一覧は、[表 10-2](#) を参照してください。

**ステップ 5** エクスポートする電話機セットを選択するとエクスポート ファイルをカスタマイズできますが、電話機の詳細は設定できません。次のフィールドから値を選択します。

- a. この電話機モデルについての回線数を入力します。
- b. 最初のドロップダウン リストボックスで、クエリー対象のフィールド（たとえば、Device Name、Location）を選択します。
- c. 2 番目のドロップダウン リストボックスで、検索基準（たとえば、begins with（～で始まる）、contains（を含む）、is empty（空白））を選択します。
- d. 検索フィールドまたはリストボックスで、検索する値（たとえば、デバイス名）を選択するか、入力します。
- e. 定義したフィルタをクエリーに追加するには、**Add To Query** をクリックします。複数のフィルタを追加するには、**AND** または **OR** をクリックします。クエリーをさらに定義するには、サブステップ b. ~ d. を繰り返します。
- f. 誤りがあった場合は、**Clear Query** ボタンをクリックして、そのクエリーを削除します。その後、サブステップ b. からやり直します。
- g. エクスポート対象のレコードが正しいことを確認するには、**View Query Result** をクリックします。

**ステップ 6** レコードをエクスポートするには、ページの最上部左側の **Export** をクリックします。

**ステップ 7** Cisco CallManager データベースからレコードをエクスポートするために必要な時間を通知するメッセージが表示されます。トランザクションを取り消すか、または **OK** をクリックして処理を続行することができます。

トランザクションが完了すると、Export Completed ステータスまたは Export Failed ステータスが表示されます。エクスポートに失敗したレコードがある場合は、Export Failed メッセージが表示されます。

**ステップ 8** BAT で生成されたログ ファイルを表示するには、**View Latest Log File** リンクをクリックします。ログ ファイルには、エクスポートされた電話機レコードの数、エクスポートに失敗した電話機レコードの数（エラー コード含む）、作成されたエクスポート ファイルの数、およびファイルの場所が示されます。

**View/Download Exported File** リンクを選択すると、エクスポートされたファイルを表示またはダウンロードすることもできます。このリンクは、複数のエクスポート ファイルが作成された場合は表示されません。

#### 関連項目

- [電話機エクスポートの使用法 \(P.10-4\)](#)
- [Default Phone ファイル形式 \(P.10-4\)](#)
- [All Phone Details ファイル形式 \(P.10-5\)](#)
- [エクスポートされた電話機レコードの検索 \(P.10-9\)](#)
- [複数ユーザを持つ電話機レコードのエクスポートおよびインポート \(P.10-10\)](#)

## エクスポートされた電話機レコードの検索

エクスポートされたファイルは、パブリッシャ サーバ上の C:\BATFiles\Export\Phones に保存されます。

電話機の挿入時に、このファイル名を確認することで、回線の再設定が容易になります。Specific Details オプションを使用してファイルをエクスポートすると、エクスポート ファイルの名前に数字のサフィックス `_n` が付加されます。このサフィックスは、電話機に設定された回線の数を示しています。たとえば、エクスポート ファイルの名前を「sales」と入力し、回線 1 と回線 3 が設定された 2 回線用の電話機がある場合、ファイルの名前は `sales_1_3.txt` になります。

ダミーの MAC アドレスで電話機をエクスポートすると、エクスポート ユーティリティによりエクスポート ファイル名に「bat」と数字のサフィックス `_n` が付加されます。たとえば、ダミー MAC アドレスの電話機のエクスポート ファイル名の名前を「newsales」と入力した場合、ファイル名は `newsales_bat_1.txt` となります。

## 複数ユーザを持つ電話機レコードのエクスポートおよびインポート

電話機を制御する複数のユーザを持つ電話機レコードをエクスポートすると、エクスポート ユーティリティにより各ユーザについて一意の電話機レコードが生成されます。電話機情報は同じままですが、各レコードのユーザ ID は異なります。

複数ユーザを持つ電話機が含まれたエクスポート ファイルをインポートすると、最初の電話機レコードは関連付けられたユーザで挿入されます。後続の電話機レコードの挿入は失敗することに注意してください。ただし、BAT はすべてのレコードを挿入しようと試み、電話機に対するユーザ アソシエーションを受け入れます。

インポート トランザクションのログ ファイルには、電話機と関連付けられた最初のユーザ以外のすべてのユーザの電話機の挿入が失敗したことが示されます。

### 関連項目

- [Default Phone ファイル形式 \(P.10-4\)](#)
- [All Phone Details ファイル形式 \(P.10-5\)](#)
- [エクスポートされた電話機レコードの検索 \(P.10-9\)](#)
- [複数ユーザを持つ電話機レコードのエクスポートおよびインポート \(P.10-10\)](#)

## ユーザ エクスポートの使用法

BAT を使用してユーザ レコードをエクスポートすると、エクスポート ユーティリティによりディレクトリ内の組織階層に基づいてユーザがソートされます。エクスポート ユーティリティはマネージャのユーザ ID フィールドに入力した値を調べて、同じ報告レベルのユーザを同じファイルに記録します。エクスポート ユーティリティはサフィックス「\_user」または「\_MgrLevel#」（# は 1 ～ 20 の数字）を付加してファイル名を変更します。

マネージャのユーザ ID は、ユーザ レコードの Manager User ID フィールドで使用される前に、ディレクトリに存在している必要があります。ファイルは、マネージャ レベルを示す数字サフィックスに基づいて、降順で挿入してください。user サフィックスを持つファイルは最後に挿入します。この方法によって、マネージャのユーザ レコードが、ユーザ レコードで使用される前に格納されます。

Active Directory ユーザの場合、パスワードはエクスポートされません。PIN は、クリアテキストでエクスポートされます。レコードをインポートした後に、Active Directory を使用してユーザのパスワードを設定する必要があります。

エクスポート ユーティリティでエクスポートされるのは、ユーザに関連付けられているデフォルト ユーザ デバイス プロファイルだけです。そのユーザ用の他のユーザ デバイス プロファイルは、Cisco CallManager Administrator を使用して別途挿入する必要があります。

エクスポートでは、次の設定は同じファイルに記録されます。

- CTI アプリケーションの使用
- コールパーク取得の許可
- 認証プロキシ権限の有効化
- 発信側番号の変更

設定に応じてファイル名には `_t` (有効) または `_f` (無効) というサフィックスが付加されます。ファイル名に含まれているサフィックス フラグは、認証プロキシ権限、CTI アプリケーションの使用、コールパーク取得、および発信側番号の変更という順序で指定されています。

## ■ ユーザエクスポートの使用法

たとえば、エクスポートユーティリティを使用して Test.txt というエクスポートファイルを作成するとします。Cisco CallManager データベースには、マネージャ MarieA を持つユーザ TomT が保持されています。MarieA のマネージャは JamesM です。TomT は、認証プロキシ権限が有効、CTI アプリケーションの使用とコールパーク取得が無効、および発信側番号の変更が有効になっており、MarieA と JamesM は、認証プロキシ権限と CTI アプリケーションの使用が有効、コールパーク取得が無効、および発信側番号の変更が有効になっているとします。この場合にエクスポートユーティリティを使用すると、これらのユーザの情報は、それぞれ別個の 3 つのファイルに保存されます。TomT は CSV ファイル Test\_user\_t\_f\_t.txt に、MarieA は CSV ファイル Test\_MgrLevel1\_t\_t\_f\_t.txt に、JamesM は CSV ファイル Test\_MgrLevel2\_t\_t\_f\_t.txt にそれぞれ保存されます。表 10-3 にこの例を示します。

表 10-3 例

初期ファイル名						Test
ユーザ ID	マネージャ	認証プロキシ権限	CTI アプリケーション	コールパーク取得	発信側番号の変更	生成されるファイル名
TomT	MariaA	有効	無効	無効	有効	Test_user_t_f_t.txt
MariaA	JamesM	有効	有効	無効	有効	Test_MgrLevel1_t_t_f_t.txt
JamesM		有効	有効	無効	有効	Test_MgrLevel2_t_t_f_t.txt

ユーザを挿入するときは、サフィックスを確認することで、認証プロキシ権限、CTI アプリケーションの使用、コールパーク取得、および発信側番号の変更が適切に設定されたファイルを選択できます。

## ユーザレコードのエクスポート

ユーザレコードをエクスポートする場合、ユーザレコードが Cisco CallManager 3.1 以前に作成されたために、そのユーザの PIN がブランクの場合があります。この場合は、デフォルトの PIN を指定してから、ユーザレコードを BAT ユーザインターフェイスに再挿入する必要があります。

ユーザレコードを Cisco CallManager からエクスポートする手順は、次のとおりです。

## 手順

- ステップ 1 **Configure > Users** の順に選択します。User Options ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2 **Export Users** オプション ボタンをクリックして、**Next** をクリックします。  
  
Export Users ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3 Export file name フィールドに、エクスポート ファイルのファイル名を入力します。
- ステップ 4 File Format Name フィールドで、ファイル形式を選択します。デフォルトでは、Default Users が指定されています。
- ステップ 5 最初のドロップダウン リストボックスで、クエリー対象のフィールド（たとえば、User ID、Department、First Name、Last Name）を選択します。
- ステップ 6 2 番目のドロップダウン リストボックスで、contains または exactly を選択します。
- ステップ 7 3 番目のボックス（検索フィールドまたはリストボックス）で、検索する値（たとえば、特定の名前またはユーザ ID）を入力します。



(注) ユーザを複数の部署から選択する場合は、このフィールドに複数の部署を入力します。たとえば、部署 12 と部署 34 からユーザを選択するには、3 番目のボックスに 12, 34 と入力します。操作を 2 回繰り返す必要はありません。

- ステップ 8 **Add To Query** ボタンをクリックして、定義したフィルタをクエリーに追加します。

誤りがあった場合は、**Clear Query** ボタンをクリックして、そのクエリーを削除します。その後、[ステップ 5](#) からやり直します。

**ステップ 9 View Query Result** をクリックして、エクスポート対象のレコードを表示します。

**ステップ 10 Export** をクリックして、選択したユーザレコードをエクスポートします。

Cisco CallManager データベースからレコードをエクスポートするために必要な時間を通知するメッセージが表示されます。トランザクションを取り消すか、または **OK** をクリックして処理を続行することができます。

トランザクションが完了すると、**Export Completed** ステータスまたは **Export Failed** ステータスが表示されます。エクスポートに失敗したレコードがある場合は、**Export Failed** メッセージが表示されます。

**ステップ 11 BAT** で生成されたログファイルを表示するには、**View Latest Log File** リンクをクリックします。ログファイルには、エクスポートされた電話機レコードの数、エクスポートに失敗した電話機レコードの数（エラーコード含む）、作成されたエクスポートファイルの数、およびファイルの場所が示されます。

**ステップ 12 View/Download Exported File** リンクを選択すると、エクスポートされたファイルを表示またはダウンロードできます。このリンクは、複数のエクスポートファイルが作成された場合は表示されません。

エクスポートされたファイルは、パブリッシャサーバ上の  
C:\BATFiles\Export\Users に保存されます。

---

#### 関連項目

- [ユーザエクスポートの使用法 \(P.10-11\)](#)
- [エクスポートログファイルの表示 \(P.10-20\)](#)
- [電話機レコードのエクスポート \(P.10-7\)](#)
- [ユーザデバイスプロファイルレコードのエクスポート \(P.10-17\)](#)

## ユーザ デバイス プロファイル エクスポートの使用法

ユーザ デバイス プロファイル レコードをエクスポートする場合、次の 2 つのファイル形式名から選択できます。

- All User Device Profile Details
- Default User Device Profile

### All User Device Profile Details 形式

複数パーティションやコール検索スペースなどの、回線設定の異なる電話機の場合、All User Device Profile Details 形式を使用します。

表 10-4 に、All User Device Profile Details ファイル形式を選択した場合にエクスポートされるフィールドを示します。

**表 10-4 All User Device Profile Details ファイル形式でエクスポートされるフィールド**

フィールドの種類	エクスポートされるフィールド
デバイス フィールド	User Device Profile Name、Description、Device Pool、Calling Search Space、AAR Calling Search Space、Media Resource Group List、User Hold Audio Service、Network Hold Audio Source、Login User ID、User Locale、Network Locale、Phone Button Template、Expansion Module Type I、Expansion Module Type II、Softkey Template、Phone Load Name、Module 1 Load Name、Module 2 Load Name、MLPP Indication、MLPP Preemption、MLPP Domain
モデル固有のデバイス フィールド	Information、Directory、Messages、Services、Authentication Server、Proxy Server、Idle、Idle Timer、Enable Extension Mobility、Logout Profile、Login User ID、Login Time、Logout Time

**表 10-4 All User Device Profile Details ファイル形式でエクスポートされるフィールド (続き)**

フィールドの種類	エクスポートされるフィールド
回線フィールド	Directory Number、Partition、Voice Mail Profile、Line CSS、AAR Group、Line User Hold Audio Source、Line Network Hold Audio Source、Auto Answer、Forward All to Voice Mail、Forward All Destination、Forward All CSS、Forward Busy External to Voice Mail、Forward Busy External Destination、Forward Busy External CSS、Forward No Answer External to Voice Mail、Forward No Answer External Destination、Forward No Answer External CSS、Forward On Failure to Voice Mail、Forward On Failure Destination、Forward on Failure CSS、Call pickup group、Forward Busy Internal to Voice Mail、Forward Busy Internal Destination、Forward Busy Internal CSS、Forward No Answer Internal to Voice Mail、Forward No Answer Internal Destination、Forward No Answer Internal CSS、Forward No Call Coverage External to Voice Mail、Forward No Call Coverage External Destination、Forward No Call Coverage External CSS、Forward No Call Coverage Internal to Voice Mail、Forward No Call Coverage Internal Destination、Forward No Call Coverage Internal CSS、Display、External Phone Number Mask、Message Waiting Lamp Policy、Ring Setting When Idle、Line Text Label、Ring Setting When Active、No Answer Ring Duration、MLPP Target Destination、MLPP Calling Search Space、MLPP No Answer Ring Duration、Max Num Calls、Busy Trigger、Call Info Display Mask、Alerting Name
ユーザフィールド	User ID
短縮ダイヤル	Speed Dial Number、Speed Dial Label
サービス	Service Name、Subscribed Service Name、Parameter Name、Parameter Value

## Default User Device Profile 形式

ユーザ デバイス プロファイルに関連付けられた詳細の限定されたセットをエクスポートするには、Default User Device Profile 形式を使用します。特定のクエリーオプションを選択してエクスポート ファイルをカスタマイズできます。

表 10-5 に、Default User Device Profile 形式を選択した場合にエクスポートされるフィールドを示します。

**表 10-5 Default User Device Profile ファイル形式でエクスポートされるフィールド**

フィールドの種類	エクスポートされるフィールド
デバイスフィールド	MAC Address、Description、Login User ID
回線フィールド	Directory Number、Display、Line Text Label、Forward Busy External、Forward Busy Internal、Forward No Answer External、Forward No Answer Internal、Forward No Coverage External、Forward No Coverage Internal、Call pickup group
短縮ダイヤル	Speed Dials

### 関連項目

- [ユーザ デバイス プロファイル レコードのエクスポート \(P.10-17\)](#)
- [エクスポート ログ ファイルの表示 \(P.10-20\)](#)
- [電話機レコードのエクスポート \(P.10-7\)](#)
- [ユーザ レコードのエクスポート \(P.10-12\)](#)

## ユーザ デバイス プロファイル レコードのエクスポート

ユーザ デバイス プロファイル を Cisco CallManager からエクスポートする手順は、次のとおりです。

### 手順

- ステップ 1** BAT から、**Configure> User Device Profile** の順に選択します。User Device Profile Options ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** **Export User Device Profiles** を選択します。Export User Device Profiles ウィンドウが表示されます。

**ステップ 3** Export File Name フィールドに、使用するファイル名を入力します。

**ステップ 4** File Format Name フィールドで、次のいずれかのオプションを選択します。選択したファイル形式によって、該当するエクスポート オプションのオプション ボタンが設定されます。

**All User Device Profiles Details** : ユーザ デバイス プロファイルに関連付けられたすべての回線アトリビュート、サービス、およびユーザ ID をエクスポートするには、次のフィールドに入力する必要があります。

- **All Details** オプション ボタンの Model リスト ボックスで、デバイス タイプまたは特定のモデルを選択します。
- 回線の数を指定して **Add to Query** をクリックします。
- [ステップ 5](#) に進みます。

**Default User Device Profile** : ユーザ デバイス プロファイルに関連付けられた詳細の限定されたセットをエクスポートするには、このオプションを使用します。

エクスポート ファイルをカスタマイズするには、次の任意の詳細オプションを設定するか、または None を選択します。

- 最初のドロップダウン リストボックスで、いずれかのクエリー オプション (Device Name、Description、または Directory Number) を選択します。
- 2 番目のドロップダウン リストボックスで、いずれかのクエリー条件 (contains (を含む)、is exactly (完全一致)、not equal to (不一致)、begins with (〜で始まる)、ends with (後方)、is empty (空白)、または is not empty (空白以外)) を選択します。
- 3 番目のボックス (検索フィールドまたはリストボックス) で、検索する値 (たとえば、特定の電話番号) を入力します。
- **Add To Query** をクリックして、定義したフィルタをクエリーに追加します。
- **View Query Result** をクリックして、エクスポート対象のレコードを表示します。
- 誤りがあった場合は、**Clear Query** ボタンをクリックして、そのクエリーを削除して、やり直します。

**ステップ 5** **Export Options** の選択を行った後、ウィンドウの一番上の **Export** をクリックして、選択したユーザ デバイス プロファイル レコードをエクスポートします。

Cisco CallManager データベースにレコードをエクスポートするために必要な時間を通知するメッセージが表示されます。

**ステップ 6** トランザクションを取り消すか、または **OK** をクリックして処理を続行することができます。

**Export** ボタンの上の **Status** 領域に **Export Completed** または **Export Failed** が表示されます。

**ステップ 7** エクスポートされたユーザ デバイス プロファイル レコード数およびエクスポートに失敗したユーザ デバイス プロファイル レコード数を示すログ ファイル (エラー コードを含む) を表示するには、**View Latest Log File** リンクをクリックします。

**ステップ 8** エクスポートされたファイルを表示またはダウンロードするには、**View/Download Exported File** リンクを選択します。

エクスポートされたファイルは、パブリッシャ サーバ上の C:\BatFiles\Export\User Device Profiles に保存されます。

---

### 関連項目

- [ユーザ デバイス プロファイル エクスポートの使用法 \(P.10-15\)](#)
- [エクスポート ログ ファイルの表示 \(P.10-20\)](#)
- [電話機レコードのエクスポート \(P.10-7\)](#)
- [ユーザ レコードのエクスポート \(P.10-12\)](#)

## エクスポート ログ ファイルの表示

BAT は、エクスポート トランザクションごとにログ ファイルを生成し、パブリッシュ データベース サーバ上の C:\Program Files\Cisco\Trace\BAT\Export ディレクトリに保存します。

**View Latest Log File** リンクをクリックすると、エクスポート トランザクションの要約と、障害の詳細が表示されます。

エクスポート トランザクションのログ ファイルを表示するには、エクスポート ウィンドウで **View Latest Log File** をクリックするか、次のディレクトリに進みます。

C:\Program Files\Cisco\Trace\BAT\Export

ログ ファイル名は、次のような形式になっています。

<レコードエクスポートの種類>\_<選択したファイル名>#タイムスタンプ  
ログ ファイル名のタイムスタンプ形式は、*mmdyyyymmss* です。

### 関連項目

- [ユーザ デバイス プロファイル エクスポートの使用法 \(P.10-15\)](#)
- [電話機エクスポートの使用法 \(P.10-4\)](#)
- [ユーザ エクスポートの使用法 \(P.10-11\)](#)
- [BAT ログ ファイル \(P.13-2\)](#)